

民族運動與自我東方主義

中文導讀

林伯修 國立臺灣師範大學

東方主義 (Orientalism) 原本意指 18 世紀以來近代歐洲人對於中東、北非和亞洲地區的東方文化與風俗之好奇與關心。但是 1978 年薩伊德 (Edward Said) 將「東方主義」的意義詮釋為近代歐洲人用來將對東方的支配予以正當化的文化說詞。易言之，東方意謂著落後、守舊、陰性、被動與非理性等特質，並以此凸顯歐洲的文明、理性和進步，並合理化歐洲對於東方的殖民行徑。

然而近年來東方開始出現利用西方人對於東方的刻板印象，反過來應用於觀光產業，成為獲利的泉源，這樣的現象稱為「自我東方主義」(self-Orientalism)。其中的典型例子為中國北京紅劇場的「功夫傳奇」。2004 年 7 月首演的「功」劇是一部以少林寺為主題的武術劇，演出者全都是到少林寺學過武術的舞者。故事描述一位少年被母親帶到少林寺接受嚴格的武術訓練和禪修，逐步升任少林寺住持，最後面臨老死。這齣武術劇的企畫人曹曉寧曾在美國佛羅里達的中國企業所創立的中國主題樂園中擔任總經理 8 年。他於 2002 年回到中國，希望將美國人演藝事業的手法應用在給外國人看的秀場事業裡。原本預計以中國的傳統京劇作為推展的對象，但是市調的結果顯示外國人對京劇並不感興趣，於是他聽從美國友人的建議以中國的武術為主題，和河南登封市的武術學校合作，創作了「少林魂」的舞台秀，結果一炮而紅。因此，他就在「少林魂」的基調上製作了「功夫傳奇」。

聯絡人：林伯修，E-mail: lpsjrock@yahoo.com.tw

「功夫傳奇」無論在劇情或者舞者的身段上都是以迎合外國人的刻板印象而設計的。劇情的主軸為西方人最喜歡的成長主題，成長的過程中主人翁如何一一克服困難與矛盾，諸如武術進步的瓶頸、青春期的性、師徒間充滿禪機的對話等等，最後終於在努力下成為住持。而這樣的主題則是透過中國的傳統文化功夫來貫穿，其中的禪學和宗教意識，完全不同於西方運動追求更高、更遠、更快以及科學、理性訓練的理念，滿足了西方人對於東方的神秘與好奇。曹曉寧就是利用西方人對於東方的想像，製作出了這齣「自我東方主義」的「功夫傳奇」。

然而當我們從文化的角度審視這樣的現象時，卻不得不反思幾個問題。

以「自我東方主義」手法所創作娛樂事業，雖然帶來了可觀的經濟收入，但是可能會有中國人質疑這種利用西方人文化偏見所再生產出來的文化並非「真正」的中國文化。這樣有誤導之嫌的文化產品，好嗎？

關於這個爭議，印尼的巴里島的居民提出了以下的方案以維持民族舞蹈「喀恰」的傳統。「喀恰」(Kecak)雖是巴里島的傳統舞蹈，事實上，它是 1920 年時由移居巴里島的德國畫家 **Walter Spies** 所創。**Spies** 接受烏布豆 (Ubud) 村長的委託創作了這個吸引觀光客的舞蹈。因此，所謂的「喀恰」是巴里島民都知道的「假傳統舞蹈」。但是巴里島真正的傳統舞蹈要如何保存呢？舞蹈是巴里島人生活的一部份，於是島民們開始思考，舞蹈應該對外國人開放到什麼程度呢？

於是在 1970 年代時，巴里島民制定法律，依照神聖性的高低來決定開放的程度，解決文化傳統保持與維繫的問題。最神聖的是 **Wali**，其次是典禮形式的 **Bubali**，第三為娛樂性和世俗性強的 **Balih-balihan**。**Spies** 創作「喀恰」就屬於第三類，這類舞蹈非常歡迎外國人參與和觀賞，也可以教他們。第二類則只在特別的情況下給外國人觀賞。至於最神聖的 **Wali** 則不准教導或給外國人看。

當然，並非每個社區都應該採取巴里島民的作法，但是透過外國人的眼光所創造出來的文化，其「真正性」可以讓這塊土地上生活的人接受嗎？在商業活動與文化保存的兩個議題之間，如何取得「文化真實性」的共識或者該如何進行，都是運動文化研究中值得深刻追蹤與注意的課題。

民族スポーツとセルフ・オリエンタリズム

寒川恒夫 早稲田大学教授

オリエンタリズム **Orientalism** は、もともと、18 世紀以降の近代ヨーロッパ人が中近東や北アフリカやアジアの地域つまりオリエントの風俗や文化に対して示した好奇心と関心をいう言葉であった。その中には、ドラクロワの「アルジェの女たち」と題する絵画、モーツァルトの歌劇「後宮よりの誘拐」にみるトルコ趣味、更に『千夜一夜物語』の翻訳、マックス・ウェーバーの中国研究など、様々な内容が含まれていた。

しかしオリエンタリズムは、1978 年に Edward Said が“**Orientalism**”と題する本を出版することで、新しい意味を獲得する。Said は、その本の中で、そうした **Orientalism** が、近代ヨーロッパ人のオリエント支配を正当化する文化であったことを指摘する。つまり、オリエントに後進性、守旧性、女性性、受動性、非論理性を付与し、こうした未開・劣等なるオリエントを文明・合理・進歩のヨーロッパが啓蒙し、教育し、救い出すという構図を表現するのに Said は **Orientalism** の語を用いたのである。ヨーロッパによるオリエントの政治的・文化的植民地化を合理化する言説の全体を Said は **Orientalism** と定義したのである。

しかし、近年、オリエントの側から西洋に対しての、**Orientalism** を逆手に取った意図的な反応が観光の中に現われ、これを **self - Orientalism** と言うようになった。つまり、西洋人のオリエントに対する偏見と固定観念を、彼らが喜ぶ形に更に増幅し、誇張して、これを観光の中で見せるビジネスの動きが始まったのである。

その典型例として、中国北京の紅劇場で上演される「功夫伝奇」を取り上げよう。以下紹介する「功夫伝奇」は、本日の発表

者である寒川が指導し、本年3月に早稲田大学に提出された村橋俊之の博士学位論文「中国武術の文化産業化」の一部を引用している。

さて、「功夫伝奇」は、2004年7月に北京市崇文区の紅劇場で初演された少林寺を主題にした武術劇である。出演者は全員が少林寺武術の経験者である。そして舞台では、一人の少年が母に導かれて少林寺の門をくぐり、厳しい武術訓練と禅の修行を通して成長し、ついには寺の最高長老となって死を迎えるという、一人の僧の生涯がアトラクティブな武術パフォーマンスによって上演される。

この武術劇を企画したのは曹曉宇であった。彼はアメリカ合衆国のフロリダに中国企業がつくった中国テーマパーク“Splendid China”の総経理を8年間務める中で、アメリカ流のショービジネスの手法を学び、2002年に帰国すると、外国人向けのショーの企画に着手する。当初、京劇を中心に市場調査をおこなうが、京劇の入場料は一人数十元程度と安価で興行収入がごく小規模であること、また外国人は中国文化には関心を持つものの京劇には興味を示さないことが分かると、京劇を断念する。そこで、アメリカ人のビジネスパートナーから伝統武術をテーマにしてはどうかというアドバイスを受けると、曹は、河南省登封市にある武術学校を訪ね、そこにおいて「少林魂」という武術ショーを創作し、舞台上演する。これはアメリカ人ビジネスパートナーから大喝采を受ける。そこで、「少林魂」を土台として「功夫伝奇」が企画されることになった。

このように「功夫伝奇」の製作にあたっては、初めから西洋外国人観光客の視線を意識していたことがわかる。外国人が見て喜ぶ中国文化を武術を通して創造することを始めたのである。

中国武術の功夫は、既にブルース・リーの映画によって欧米ではよく知られていた。テーマとしては最適であった。後はストーリーとパフォーマンスをどのようにつくるかであった。ここで

曹は、ストーリー全体を西洋人が親しんでいる個人の成長サクセスストーリーとして設定し、その過程で、主人公が様々な困難に立ち向かい、そしてひとつひとつを見事に克服してゆくという、これまた外国人好みのいくつかの山場を組み入れることを忘れない。思春期を迎えた主人公が異性に目覚め、葛藤するシーンは、そうした山場の一つとして用意されている。

しかし、こうした成長サクセスストーリーが、①中国の伝統文化たる功夫武術を通して演じられること、また②その武術が単に敵を殺傷する技術としてあるのではなく、人を悟りに導く禅という深い仏教文化の背景を持っていること、そして③そうした武術と宗教の融合という西洋にはない神秘性が前面に出るように仕組まれているのが特徴である。ここには、より早く、より高く、より強くというオリンピックのスローガン、つまり科学的トレーニングによって身体を鍛え、ライバルに勝つことを最高の目標とする西洋生まれのスポーツとは 180 度違った、自分自身に克つことを目指す中国独自の文化をアピールしようとする曹の姿勢が見て取れる。

「功夫伝奇」は、西洋人が中国に期待する“科学による理解を超えた不思議なオカルト的世界”を、セルフ・オリエンタリズムとして曹が逆手にとって提供した作品といえる。

“不思議”を強調するための会話も随所に織り込まれている。劇は高僧と一人の子供との会話で始まるが、高僧は子供に「蓮の花は静かに開き、陽光が虹を作り、水滴が大海原に入り、瞬間が永遠に融合する。」と語る。子供は「どういうこと」と尋ねる。

この会話には、瞬間と永遠という絶対矛盾の統合という道教的中国哲学のひとつのテーマが示されている。また、武術訓練の目的が、心と身体を一つにして世俗の欲望に惑わされることのない自分自身をつくり、そしてついには気によって自身を宇宙と一体化させることにあると諭すのである。

高僧の子供への語りは、そのまま観客たる外国人に語られたものである。高僧からのメッセージに、日頃はキリスト教文化の下に生活する西洋人観客は、中国という不思議の世界を体験し、エキゾチックなカルチャーショックの楽しさに、お金を払って浸るのである。

もちろん、舞台上のパフォーマンスは、二人のアメリカ人振付師によって、まるでサルティンバンコの舞台を見るように、最新かつきらびやかに構成されている。

問題性

「功夫伝奇」は大ヒットし、その後、興行は世界を回り、アメリカに常設館を持つに至っている。ちなみに北京紅劇場の入場料は京劇の数十倍であり、中国では「功夫伝奇」の成功にならって同様の武術劇が各地で創作されている。

セルフ・オリエンタリズムとして創作されたこうしたイベントは大きい経済収入をもたらしたが、これを文化としてみた時には、いくつかの問題を発生させている。

ひとつは真正性 *authenticity* の問題である。なるほど中国伝統の武術が材料になっているものの、出来上がった「功夫伝奇」は、それが初めから西洋人の中国文化に対する偏見・固定観念を再生産する形につくられているため、どこまでを中国の本当の文化と認めていいかという問題である。これは、当の中国人がこのことは問題であると意識して初めて表れるものだが、同じ問題を抱え、そしてひとつの解決策を案み出した例として、インドネシア共和国のバリ島でおこなわれるケチャを次に取り上げよう。

ケチャは、今でこそバリ島とインドネシアを代表する民族舞踊として世界的に有名であるが、実はこの舞踊は 1920 年代にある一人の人物によって創作されたものであった。その人物とは、当時バリ島に移住していたドイツ人画家の *Walter Spies* であっ

た。バリ島は当時オランダ政府の統治下にあり、オランダ政府の楽園観光化政策によって、欧米の文化人が多数住み着いていた。**Spies** はそうした外国人の一人であった。ウブド村の村長から観光のための舞踊創作を依頼された **Spies** は、悪霊退散儀式のサンヒャン・ドゥダリで踊られていた踊りに手を加え、そして全体を、インド伝来の叙事詩ラマヤナ物語のストーリーによって舞踊劇に仕立て上げたのである。この舞踊がパリ（**Paris**）植民地博覧会などを介して世界に宣伝されることになった。今日では、バリ島のたいていの村がそれぞれケチャの舞踊チームをもち、寺の中で観光客のために入場料を取って見せたり、ホテルで公演したり、また外国を巡演するようになっている。

他方で、しかし、「我々の舞踊のどこまでを外国人に見せてよいのか、また見せてはいけないのか」という問題意識をバリ島民は抱くようになった。**Spies** がつくったケチャには伝統舞踊が組み込まれているとは言え、全体は外国人を意識してつくられた新しいいわば偽の「伝統舞踊」であり、バリ島民の古くからの本物の舞踊を外国人の目から守らなければならないという意識が働いたのである。その背景には、彼らの日常生活がそうした先祖伝来の宗教的な舞踊によって大きく支えられている現実があり、その真正性 **authenticity** の変容は彼らの安定した生き方そのものを乱す恐れがあったためである。

そこで 1970 年代にその解決が政令として条文化されることになった。そこでは、バリ島におこなわれる舞踊の全体が神聖性を基準にして 3 つに区分された。最も神聖なのは、**Spies** のケチャにも採用されたサンヒャン・ドゥダリなどを含めた **Wali**、次に神聖なのが儀礼的な **Bubali**、3 番目は娯楽性の強い世俗的な **Balih-balihan** である。**Spies** 創作のケチャは 3 番目の **Balih-balihan** の中に入り、このカテゴリーの踊りは外国人に積極的に見せてよく、また教えてもよい踊りである。2 番目の **Bubali** は、特別の事情のある時に外国人に見せることができる踊りであるが、しかし

1 番目の **Wali** は、外国人に決して見せることも教えることも禁じられた踊りである。

バリ島民は伝統民族舞踊を 3 つに区分し、それぞれのあり方を条文化することで自分たちの“真正の”文化の変容と破壊に対応しようとしている。

もちろん、バリ島民のこうした対応の仕方が全てではない。外国人の目を意識してつくられた文化が、かえって、そのままの形で真正化してゆくこと、別言すれば真正なものとして、その土地の人達に受け入れられ、伝えられていくことも考えられるからである。曹がセルフ・オリエンタリズムの流れの中でつくった「功夫伝奇」の中の武術の文化の形は、そのまま中国武術の“真正文化”として中国人に受け入れられていくのであろうか。このことは、スポーツ文化の重要な問題として、注意深く見守ってきたい。

身體文化多元論壇
身體文化學報 第十三輯